

「選挙権年齢引き下げについて」

筑紫中央高等学校 木口 あゆ

私は、今年から導入された選挙権年齢引き下げについて反対だ。なぜなら、十八歳は政治についての知識が乏しく、未熟であるからだ。

私は今年、母親に促されて選挙に行った。しかし、それは不本意だった。私は、誰かに投票するとしたらきちんと立候補者の主張を聞いてから行きたいと考えていたが、結局は母親の支持する政党に投票した。周りの選挙に行った友達も、私と同じように親と同じ政党に投票した人が多かった。これは本当に正しい選挙なのだろうか。よく「皆様の清き一票を」という言葉を耳にする。これは一票の重さを表している言葉だが、私のように投票した人に関しては、自分の考えではないため一票に責任感がなく、重さがあるとはいえない。適当な考えで投票して、結果として票が集められたとしても、それはただの票集めに過ぎない。

たしかに、選挙権年齢が引き下げられることによって若者の政治についての関心が増え、社会的責任を担わせることができたり、若者の意見を反映することができるかもしれない。しかし、結局選挙に行く人は、政治に興味がある人だけである。事前に選挙権を与えられていた大人が変わらなかったのに、選挙権を与えられたからといって若者に興味がわくとは言い難い。また、選挙権の年齢を引き下げただけで、被選挙権が二十五歳、三十歳であるため、若者の意見発信は進まない。

したがって、選挙権年齢を引き下げたとしても今までとあまり変化がないため、反対だ。しかし、今回この文章を書くにあたって、選挙に関して様々なことを調べて、自分が何も知らないことを実感した。私のように知識が乏しい人たちに選挙を理解させるためにも、学校の授業で選挙に関してもっと学ばせるべきだ。これによって、正しい知識を持った若者が増え、正しい選挙が行えるはずだ。選挙権年齢引き下げは、この制度が定着した後でも遅くはない。政治への関心を増やすためには、年齢引き下げよりやらなければいけないことがあるはずだ。本当に、良い国となるために、今後の課題を見つけていくことが大切である。